

データ共有がひろく社会 —データ提供機関における課題と展望—

オープンデータに関する現状・課題・展望

庄司昌彦 Masahiko SHOJI

武蔵大学社会学部 教授 / 武蔵学園データサイエンス研究所 副所長

デジタル庁オープンデータ伝道師 / Open Knowledge Foundation Japan代表理事

なぜオープンデータを進めるのか

- 透明性・信頼性向上

- 政治：民主主義の質を高める（Open by Default）

- 国民参加・官民協働

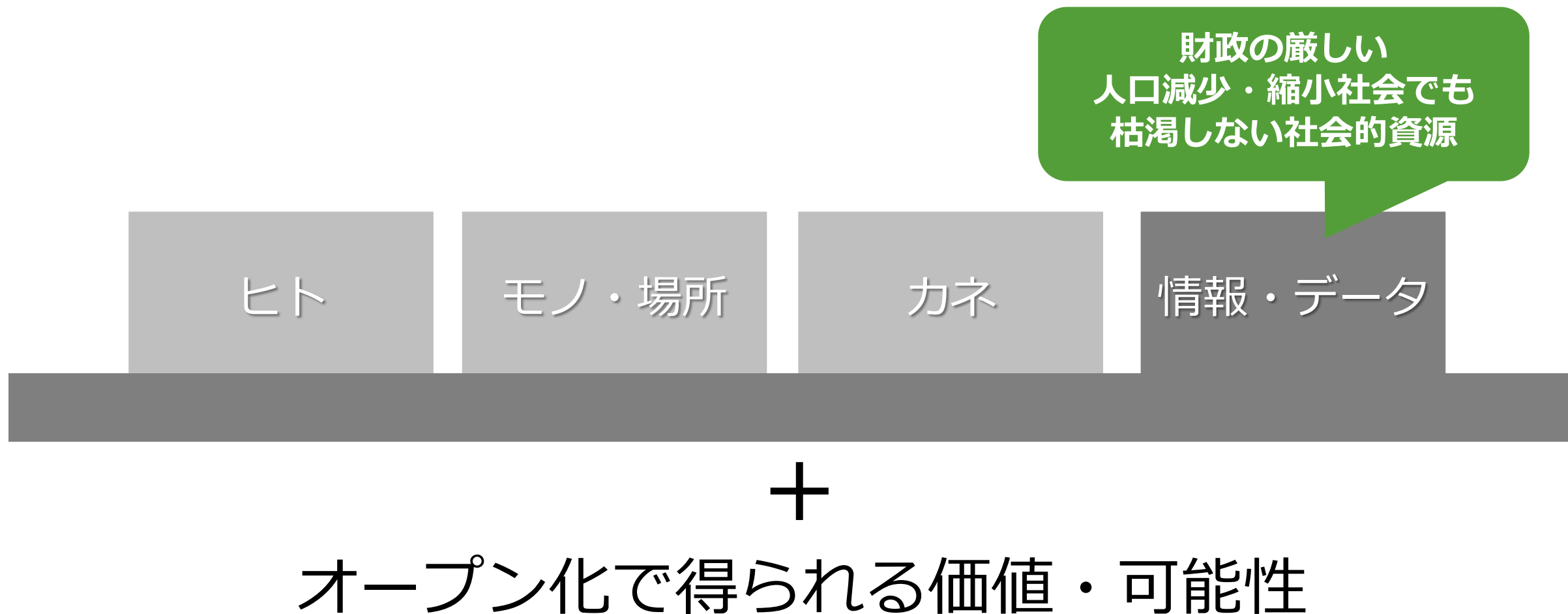
- 行政：自分たちで社会を作る（Government as a Platform）

- 経済活性化・効率化

- 経済：新しい価値を生み社会を豊かにする（New Oil of the 21c）

- 目的は経済だけでない。政治、教育、コミュニケーション、社会課題解決等も。
- アプリ開発は手段の一つ。紙に印刷することも立派な活用。
- 情報や文書の問題でもある。IT（情報技術）担当だけの問題ではない。

使える資源＋オープン化の力



日本のオープンデータ政策の経緯

筆者作成

年度	概要・キーワード	政府などの動き
2008	リーマンショック	
2009	米国オバマ政権	「透明性とオープンガバメントに関する覚書」
2011	東日本大震災	自発的取組み（電力・避難所・物資等）と課題の露呈
2012	萌芽的取組み	電子行政オープンデータ戦略
2013	国際的な政策課題へ	政府データカタログサイトβ版、G8オープンデータ憲章
2014	民間活動の活性化	シビックテック（Code for Japanほか各地）
2015	オープンデータ1.0完成	政府標準利用規約2.0版
2016	オープンデータ2.0開始	官民データ活用推進基本法
2017	官民データ活用	改正個人情報保護法施行、官民データ活用推進計画
2018	多様な課題の表出	欧州GDPR、公文書管理・統計不正問題
2019	プラットフォームとDFFT	G20 “Data Free Flow with Trust”
2020	新型コロナ	デジタル敗戦、シビックテックとの連携、監視社会化
2021	デジタル庁発足	ベースレジストリ整備、3D都市モデル・点群データ
2022	自治体DX	デジタル田園都市国家構想・デジタル臨調
2023	デジタル化批判と生成AI	マイナンバーカード（問題）、生成AI
2024	生成AIブーム	生成AIブームの一方でオープンデータ政策は停滞
2025	AIがさらに重要政策へ	AI法、政策ダッシュボード

デジタル庁の自治体調査によると
オープンデータを
「良く知っている」は
2020年60.5%から2024年56.0%に減少。
「すでに公開している」は
2020年56.6%から2024年84.3%へ大幅増。

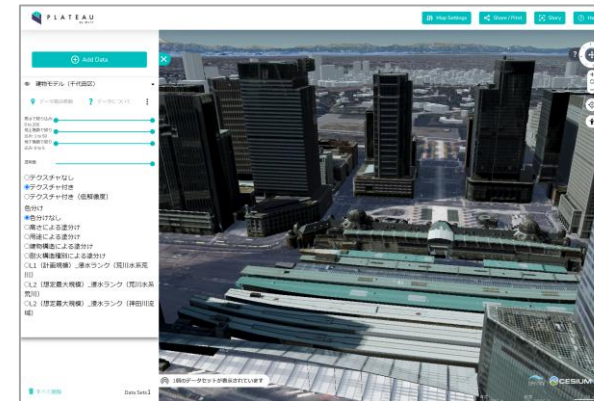
環境の充実・データポータル整備



厚労省NDBオープンデータ
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunits uite/bunya/0000177182.html>



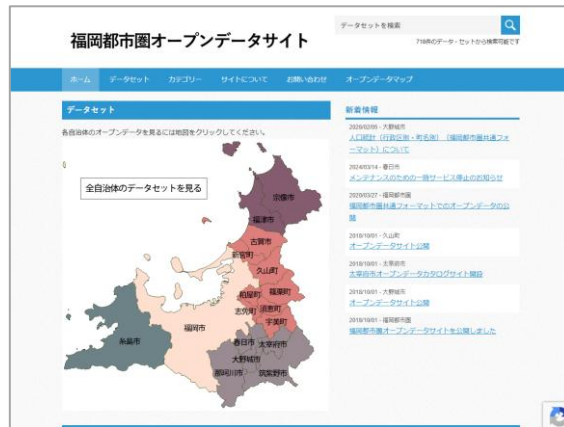
e-gov データポータル
<https://data.e-gov.go.jp/info/ja>



国土交通省 PLATEAU
<https://www.mlit.go.jp/plateau/>



JAPAN SEARCH <https://jpsearch.go.jp/>



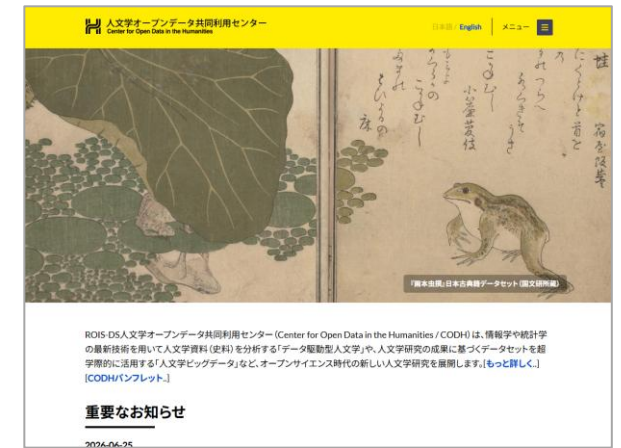
福岡都市圏オープンデータサイト
<https://odcs.bodik.jp/fukuoka-toshiken/>



AIGID G空間情報センター
<https://front.geospatial.jp/>



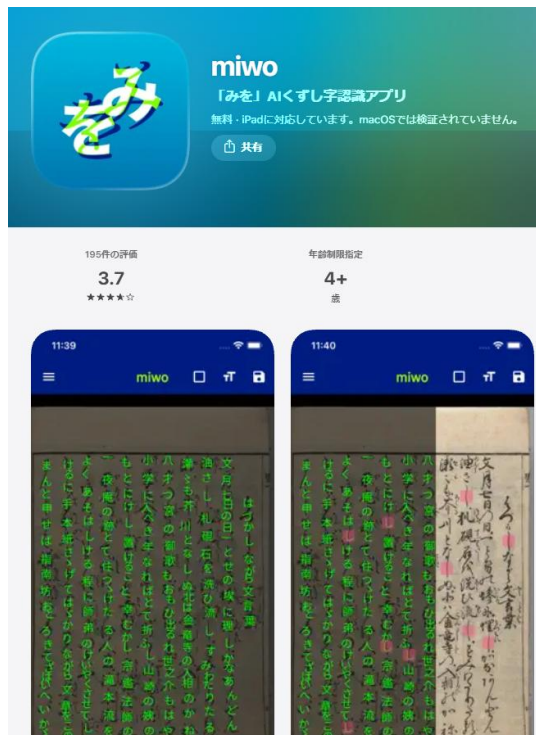
公共交通オープンデータセンター
<https://www.odpt.org/>



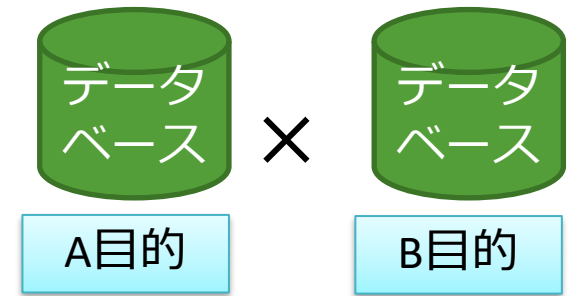
人文学オープンデータ共同利用センター
<https://codh.rois.ac.jp/>

近年の動向—AIとデータ需要の変化

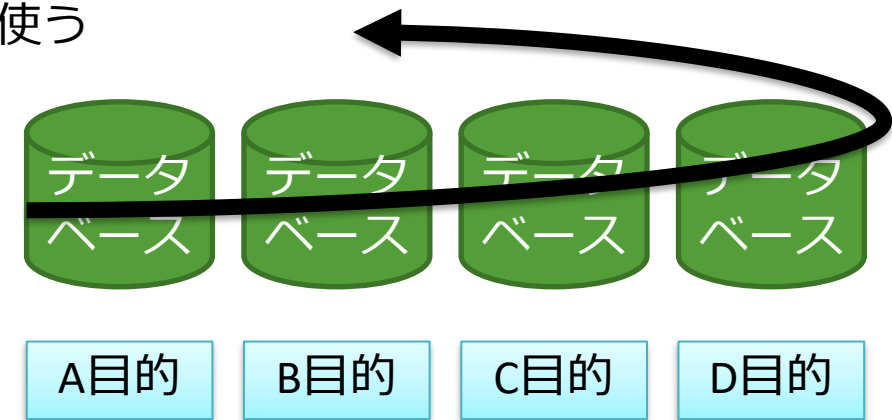
- AI学習素材としての良質なデータの重要性
 - 信頼できる良質なデータをオープンに提供し続けることこそが、デジタル社会における政府・公的機関の役割ではないか
- 目的AとBのデータを掛けあわせれば新しいことが分かる
例：避難所の位置情報×人の集まり具合
→隠れ避難所（Yahho!Japan×東大関本研）



「みを」AIくずし字認識 <https://front.geospatial.jp/>



AIの学習用に
大量のデータを使う



議論したいこと

1. 社会的なデータ共有・データ提供におけるAIの活用・AI普及の課題と可能性
2. データのライフサイクルに応じたマネジメントの課題
3. データ提供側に望まれる取組み